

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイ クライムアップ		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日		R7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な運動器具を使用し基礎体力の向上を測れる。	ボルダリングや跳び箱など、様々な運動器具を用いて、視覚的な支援を行う事により五感を刺激しながら楽しんで取り組める環境を行っている。	能力に高めることにより自己肯定感を上げ、次のステップや児童の可能性を広げていき、よりよい生活等につなげていく。
2	ルーティンを確立し規則正しい生活を送っていくことができる。	活動の中でルーティンがあることによりスケジュールリングが行う事ができ、それに沿った行動が行える。	ルーティンがスケジュールリングのイメージを全員で揃えることでより未来への道筋を立てて行動することができるように執り行っていく。
3	様々な年代、様々な運動神経の児童がおられ、多様な児童と関わることができる。	多様性を認められる環境作りを行うことで他者との関わりを増やしていくことができ、コミュニケーションの向上や集団行動にも馴染めるようになっている。	活動でもペアワークを増やしており、ルーティンの中で協調性を養っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動のバリエーションの充実	現在も事業所内では運動をメインに様々な活動に取り組んでいますが、今後はさらに職員一人ひとりの強みや特性、施設の環境を活かした新しい活動内容を検討・提案し、子どもたちの興味や成長に合わせた多様な支援を提供していきます。	・職員の特長や資格(音楽・美術・スポーツ等)を活かした新しいプログラムを積極的に取り入れる ・季節行事や地域資源を活用し、室内外での活動に変化をつける ・子どもや保護者の声を取り入れたアンケートを実施し、活動内容に反映する
2	環境整備の見直しと安全性向上	これまで重大な事故や危険は発生していませんが、今後子どもたちが安全かつ安心して過ごせる環境を追求するために、定期的に職員間で協議を行い、環境整備の見直しと改善を継続的に実施していきます。	・日常的に安全点検チェックリストを使用し、問題点を早期発見・改善する ・職員全員が事故・ヒヤリハットの情報を共有し、再発防止策をチームで検討する ・避難訓練や安全マニュアルに基づくシミュレーションを定期的に実施する ・保護者へも安全面の取り組みを周知し、安心して利用できる環境を整える
3	支援記録・書類業務の効率化	保護者の皆様や職員の負担軽減を図るため、支援記録や関連書類作成の効率化について見直しを行い、ICTの活用も視野に入れたよりスムーズな業務運用体制の確立を目指します。	・支援記録作成方法を統一し、入力ミスや重複作業を減らす ・ICTツールや業務支援アプリの導入を検討し、事務作業の時間を短縮する ・職員間で業務の流れを整理・マニュアル化し、新人や代替職員も対応しやすい体制を整える ・定期的に業務効率について振り返りを行い、必要に応じて改善を重ねる